

平成21年6月16日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：平成19年度～平成20年度

課題番号：19500640

研究課題名（和文） 郊外戸建住宅地の管理・運営システムの構築に関する研究

研究課題名（英文） Study on the Formation of Management system at Suburban Detached Housing Estate

研究代表者

西村 一郎（NISHIMURA ICHIRO）

平安女学院大学・生活福祉学部・教授

研究者番号：30043186

研究成果の概要：「田園調布」のような歴史的な戸建て住宅地の場合、大きな敷地、生け垣環境などが敷地分割、景観変貌の「危機」に直面していることが明らかとなった。1個々の新しい戸建て住宅では、必ずしも高齢化、単身化、「消滅」といった過程をとるものではなく様々な可能性があることが分かった。戸建てコーポラティブ住宅地の場合、家族生活を越えた「共同生活」的側面をももち、管理運営にもプラス的に働いている。社会福祉協議会は、一義的に住宅地の管理運営組織ではないが、社会福祉的視点から住宅地管理運営的働きも一定可能であることが分かった。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成19年度	800,000	240,000	1,040,000
平成20年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,300,000	390,000	1,690,000

研究分野：家政学、生活科学

科研費の分科・細目：

キーワード：郊外戸建住宅、社会福祉協議会、住宅地の管理運営、高齢化、田園調布、宅地細分化、景観変動、コーポラティブ住宅地

1. 研究開始当初の背景

住宅地の二大グループとして集合住宅地と戸建住宅地がある。集合住宅地の管理運営は公共や「管理組合」が責任を持って行う。一方、戸建住宅地には一般に管理運営組織はない。しかし、将来の高齢化、単身化などを考えると何らかの管理運営の「システム」が必要、との意識があった。

2. 研究の目的

郊外戸建住宅地の管理運営の実態、問題点を明らかにし、当該住宅地における管理運営システムのあり方を明らかにする。

3. 研究の方法

歴史的事例、少数の個別事例、コーポラティブ住宅地の事例、社会福祉協議会の事例など事例研究を行う。聞き取りや観察を主とする。

4. 研究成果

「田園調布」のような歴史的な戸建て住宅地の場合、大きな敷地、生け垣環境などが敷地分割、景観変貌の「危機」に直面していることが明らかとなった。/個々の新しい戸建て住宅では、必ずしも高齢化、単身化、「消滅」といった過程をとるものではなく様々な可能性があることが分かった。/戸建てコーポラティブ住宅地の場合、家族生活を越えた「共同生活」的側面をもち、管理運営にもプラス的に働いている。/社会福祉協議会は、一義的に住宅地の管理運営組織ではないが、社会福祉的視点から住宅地管理運営的働きも一定可能であることが分かった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 件)

[学会発表] (計 1 件)

前田真子、「社会福祉協議会の地域における役割—広島市安佐南区大塚・伴南学区社会福祉協議会を事例として—」、日本建築学会、2008年9月19日、広島大学

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

○取得状況 (計 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西村 一郎 (平安女学院大学・教授)

(2) 研究分担者

前田 真子 (広島工業大学・講師)

(3) 連携研究者